

# 川西町洪水ハザードマップ 目次

- ハザードマップの使い方 ..... 1
- 避難情報伝達の流れ ..... 3
- 指定避難所一覧 ..... 4
- 情報収集方法 ..... 5
- 風水害時の避難の心得 ..... 8
- 風水害の知識 ..... 9
- ハザードマップの凡例 ..... 10



- ハザードマップ ..... 11
  - 洪水浸水想定区域図(計画規模) ..... 11
  - 洪水浸水想定区域図(想定最大規模) ..... 13
  - 浸水継続時間 ..... 15
  - 家屋倒壊等氾濫想定区域 ..... 17
  - 非常持出品・備蓄品 ..... 裏表紙

## ハザードマップの使い方

洪水から素早く安全な場所に避難し、被害を最小限に抑えるため、避難所や避難時の心得、災害の備えなどを、日頃から家族や地域の皆さんと話し合い、確認しておきましょう。また、家族や地域独自の情報なども追加しておきましょう。

### 手順1 自宅の危険度を確認しましょう。

地図上で自分の家の位置を確認し、自宅とその周辺が浸水した場合の、浸水の深さや継続時間、家屋倒壊などについての情報をあらかじめ確認しておきましょう。

計画規模 P11~12  
 想定最大規模 P13~14  
 浸水継続時間 P15~16  
 家屋倒壊等氾濫想定区域 P17~18



### 手順2 避難所を確認しましょう。

自分の家の最寄の避難所を探し洪水時に避難できる避難所かを確認しましょう。確認した避難所を表紙の防災メモに書き込んでおきましょう。

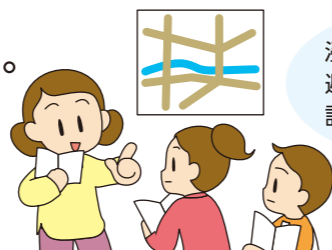
災害の状況によっては、予定の避難所まで行けないこともあるため、避難先は町が開設する避難所だけでなく、日頃から安全な場所にある親戚・知人宅に避難することなども考えましょう。

指定避難所一覧 P4  
 防災メモ 表紙



### 手順3 避難する道順について確認しましょう。

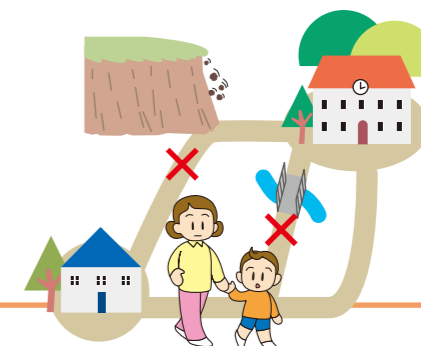
家族で話し合ったり、実際に歩いて避難経路を確認しハザードマップに書き込んでおきましょう。



浸水が深い場所を避けた避難経路を設定する。

### 手順4 実際に避難経路を歩いてみましょう。

設定した避難経路を実際に歩き、危険な場所などがあれば経路を見直しましょう。



### 手順5 災害情報面で日頃から災害に備えましょう。

- 自助・共助・公助
- 風水害時の避難の心得
- 避難情報伝達の流れ
- 風水害の知識
- 情報収集方法
- 非常持出品・備蓄品

p2~3、5~9、  
裏表紙



### 自助・共助・公助とは

災害に対する予防・応急対応、復旧・復興には、住民の皆様と行政機関等がそれぞれ役割を果たし、協力・連携して対策に当たることが大切です。特に被害を最小限に抑えるためには「自助・共助・公助」の効果的な組み合わせが重要です。



「自分の身は自分で守る」  
 飲料水、食料等の備蓄、防災知識、技術の習得、危険回避のための自主避難など、普段からの災害に対する準備。



「互いに助け合い、被害を減らす」  
 自主防災組織の結成、活動の促進、訓練への参加、相互協力体制の推進。



行政機関(町、県、国、消防、警察、自衛隊など)の活動。各機関とも災害の発生からできるだけ早く応急対応活動にあたるよう備えています。



### 自主防災組織の協力

特に大地震のような大規模な災害時は、交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発の火災などで、消防や警察なども、同時にすべての現場に向かうことはできません。そのような事態に備え、地域住民が連携して地域の被害を最小限に抑えることが自主防災組織の役割です。

あなたとあなたの町を守るために自主防災活動へ積極的に参加し、「災害に強いまち川西町」を作りあげましょう。



### 自主防災

● 自主防災組織とは  
 地域住民が連携し自主的に防災活動を行う組織のことをいいます。

- 平常時の活動
- ① 防災知識の普及啓発
  - ② 防災訓練や地域の防災安全点検の実施
  - ③ 防災資機材の備蓄

- 災害時の活動
- ① 地域住民への避難の呼びかけ・誘導
  - ② 負傷者の救出・救護
  - ③ 初期消火活動
  - ④ 避難所の運営